

## オーケストラの魅力とその伝え方

(ベルリンフィルおよびコンツェルトハウスの幼児音楽教育プログラム)

中根 猛

○2019年6月3日コンツェルトハウス メリッヒ青少年教育担当官

1. 演奏会の観客数の減少傾向はドイツにおいても同じ。特に若者のクラシック音楽離れは深刻。交響楽団の将来は子供たちにかかっているといても過言ではない。音楽教育は早く始めれば早いほど、子供たちは自然な形で音楽へのアクセスをもつことができる。子供は10~12歳くらいになると関心分野が多岐に広がり、たとえば芸術面では演劇や美術にも関心が深まる傾向。したがってその前に音楽の基礎をしっかりと子供たちに刷り込むことが重要。

2. コンツェルトハウスでは90年代に教育部門を設置して幼児音楽教育プログラムを重視。2名の正規職員と5名の非正規職員でユニットを構成。教育プログラムは年に数回といったワンショットアクション的行事ではなく、1シーズン(9~6月)を通じて約90の幼児音楽教育に特化したプログラムを用意。コンツェルトハウスには大ホール以外にも大小いくつかの部屋があるので、子供のためのプログラムを頻繁に開催することが可能。

3. プログラムは3歳児以上、4歳児以上、6歳児以上、1年生~10年生向けを用意。カテゴリーとして(1)家族(子供と保護者)および(2)保育園、幼稚園、学校用があり、(1)は週末に(2)は学校等の行事としてクラス単位で平日に、同様のプログラムを実施。

また楽団はエリート集団ではないとの意識を強くもって、障害者施設、孤児院等社会的弱者、貧困地域にも目を向けており、出前授業を実施。

4. プログラムの内容は子供の関心を惹く絵本、児童書等のキャラクターを利用し、これを音楽と結びつけた形で実施するものが多い。またコンツェルトハウスの会場で実際に楽器に触れさせたり、練習風景を見学させるプログラムもある。高学年用には子供オペラやゲネプロ鑑賞も含まれている。

○2019年6月3日ベルリン フィルハーモニー 教育チーム長トーパー教授

1. 子供に音楽を根付かせるには12歳くらいになるまでの教育が決定的に重要。ベルリンフィルでは2002年教育部門が発足。現在はプログラム企画5名、プログラムマネージメント1名、アシスタント1名、合唱プログラム4名で構成。ベルリンフィルは30年ほど前からスポンサーであるドイツ銀行から支援を受けているが、サイモン・ラトルが首席指揮者に就任した際、教育プログラムのための支援増額を要求し認められた。以降、外部の教育者の協力も得つつ学校教育等を重視。首席指揮者がオーケストラの将

来をどう考えるかは決定的な重みを持つ。

## 2. 教育プログラムの主要なものは次の通り。

(1) 家族向け ファミリーコンサート（6～10歳児対象）一時間程度鑑賞の後、楽器に触れたり、一緒に歌う。コンサート中に、別途乳幼児（0歳児より）にはベビーシッティングの提供もある。

### (2) 音楽好き向け

- ・フィルハーモニーの舞台裏見学、オーケストラの構成、活動等の紹介
- ・様々な音楽テーマに関するワークショップ
- ・学校の長期休暇を利用したプロジェクト（14～19歳）
- ・合唱プロジェクト（Vokalhelden）ユニークな試み。
- ・オーケストラ・プロジェクト 練習の成果をオープンハウスの日に大ホールで演奏

### (3) 才能ある若者向け ・作曲の指導（14～19歳）

### (4) 保育園・幼稚園児 ・楽団員による訪問。保育士への音楽教育指導

- ・フィルハーモニーでのゲネプロ鑑賞、コンサート体験

(5) 学校向け ・フィルハーモニー見学（音楽のみならず、建物への理解）  
・創造的プロジェクト（クラシック音楽への関心を多様な形で促進）

- ・ゲネプロ鑑賞

3. 社会的貢献 ベルリンフィルは象牙の塔に閉じこもるべきではないとの観点から社会的活動にも積極的に取り組む。刑務所等の施設訪問を実施。特筆すべきは難民のためのイニシャティブ。難民をフィルハーモニーに招待。難民の統合促進に寄与